

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。「1. リベラルアーツの素養」「4. キャリア展望を確立する力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連）

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
英語ディスカッション	必修	1	1クラス10名程度の学習環境で発言の機会が増えることにより、スピーキングが徹底的に強化される。また、ディスカッションに必要な基本的表現を習得し、ディスカッションスキルが向上することで、自分の考えを適切な英語で述べる力を身につける。	◎				○	◎		◎	
英語ディベート	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、特定のテーマについて肯定側と否定側に分かれて議論することを通じて、論理的かつ批判的に考える力、情報を収集し活用する力、他者と建設的に議論する力、合理的な意思決定をする力を身につける。	◎				○	◎		◎	
英語リーディング&ライティング1・2	必修	1	読解スキルのトレーニングを行い、要約を書く活動も合わせて学ぶことにより、的確に読む習慣が身につく。また書くために読むという位置づけで読解活動を行うことで、基礎的な英語表現からパラグラフの書き方、簡単なエッセイ、リサーチペーパーの書き方を身につける。	◎				○			◎	
英語eラーニング	必修	1	PCを使ったリーディングとリスニングを中心に、自分のペースで学習を進め、自らの得手・不得手を確認しながら、自主的および継続的な英語学習の習慣を身につける。また、定期的なグループ活動により、主にビジネスの場面で求められる受信力と発信力を伸ばす。	◎				○			◎	
英語プレゼンテーション	必修	1	プレゼンテーション活動を中心とした1クラス20名程度のクラス。語彙力およびリーディング力、リスニング力、スピーキング力の総合的な英語運用能力の育成を目的とする。プレゼンテーションの基本的なスキルの修得とともに、書き手の意図や文章の意味を正確に読み取る訓練を行い、読んだ内容についてプレゼンテーションができるようにする。	◎				○	◎		◎	
上級英語1(リーディング&ライティング)	必修	1	週2回の集中クラスで、よりアカデミックな内容を扱いながら、リーディング力とライティング力の両方をのばし、本格的なリサーチペーパーの書き方の基礎を学ぶ。各自テーマを設定し、情報収集をし、論文を書く訓練を行う。	◎				○	○		◎	
上級英語2(プロジェクト英語)	必修	1	週2回の集中クラスで、グループで設定したアカデミックな課題の達成に向けて情報収集、読解、データ収集やグループディスカッションを進め、グループメンバーと協力、協調しながら課題を完成させ、プレゼンテーションを行う。また春学期に習得したライティングスキルを応用して各個人がリサーチペーパーを書く。	◎				○	○		◎	
English Intensive A (Global World)	自由	2~4	現代世界における最新の問題を学び、これらについて理解するとともに、自分の意見を述べるができるようにする。	◎				○			◎	△
English Intensive B (Academic Language Skills)	自由	2~4	海外留学に必要な、講義を聞く、ノートを取る、まとめる、ディスカッションをする等高度な英語スキルを身につける。	◎				○			◎	△
English Intensive C (Integrated Language Skills)	自由	2~4	社会生活に必要な、特に仕事やビジネスのための高度な英語スキルを、ロールプレー、ディスカッションを通して身につける。	◎				○			◎	△
English Intensive D (Intercultural Understanding)	自由	2~4	言語、文化、コミュニケーションについての重要なトピックを取り上げ、言語と文化、異文化理解についての知識を深める。	◎				○			◎	△
English Communication 1	自由	2~4	具体的な場面や言葉の機能を中心に英語による基本的なディスカッションのやり方とその時に役に立つ表現を学ぶ。	◎				○			◎	△
English Communication 2	自由	2~4	いくつかのテーマを設定し、自分の意見を述べたり、相手の意見にコメントをしたりしながらディスカッションの方法を学ぶ。	◎				○			◎	△
Speech	自由	2~4	スピーチの組み立て方、原稿の書き方、調査方法、話し方、パワーポイントの作り方・使い方、質疑応答の仕方などを学ぶ。	◎				○	◎		◎	△
Debate	自由	2~4	立証の仕方、データの使い方、肯定議論・否定議論の立て方、様々な質問の仕方などを学ぶ。	◎				○	◎		◎	△
Presentation	自由	2~4	プレゼンテーション用の話の組み方、データの有効な使い方、人を引き付ける話し方、説得させる方法などを学ぶ。	◎				○	◎		◎	△
Pleasure Reading	自由	2~4	英語の本を読むことが楽しめるようにする。	◎				○			◎	△

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
Current English 1 (reading)	自由	2~4	身近にある英語の新聞や雑誌などを使い、世界の出来事や日本のニュースをリアルタイムで読めるようにする。	◎				○			◎	△
Current English 2 (reading)	自由	2~4	英語圏で読まれている新聞や雑誌などを使い、海外の様々なニュースや海外から見た日本のニュースを読み解く。	◎				○			◎	△
Current English 1 (listening)	自由	2~4	メディアを通して入ってくるニュースをリアルタイムで聞き取れるよう、時事英語の語彙や表現、リスニングのポイントを学ぶ。	◎				○			◎	△
Current English 2 (listening)	自由	2~4	国際政治や経済の話題、文化やスポーツの話題、コメンテーターの論評なども含め、リアルタイムで聞き取れるようにする。	◎				○			◎	△
Japanese Studies through English	自由	2~4	日本とはどのような歴史と文化を持った国なのかを説明し、日本で起きているホットな話題を英語で発信できるようにする。	◎				○			◎	△
Language and History	自由	2~4	言葉の概念について、英語で理解し、説明や議論ができるようにする。	◎				○			◎	△
English through Movies A	自由	2~4	字幕無しの映画を見ることを通して、コミュニケーション能力を高める。	◎				○			◎	△
English through Movies B	自由	2~4	英語の映画を通じ、社会的・文化的問題への理解を深めつつ、リスニング、スピーキング等の技能を向上させる。	◎				○			◎	△
English through Movies C	自由	2~4	字幕無しの英語映画を理解できるようにする。	◎				○			◎	△
English through Movies D	自由	2~4	字幕無しの英語映画を理解できるようにする。	◎				○			◎	△
English through Movies E	自由	2~4	字幕無しの英語映画を観ることを通じ、英語を学ぶことが楽しめるようにする。	◎				○			◎	△
English through Movies F	自由	2~4	字幕無しの英語映画を理解できるようにする。	◎				○			◎	△
World Heritage Sites	自由	2~4	ユネスコによって指定された世界遺産のすばらしさについて英語で理解し、説明できるようにする。	◎				○			◎	△
World Cultures	自由	2~4	英語による情報を通じて、世界中の様々な文化を理解し、英語で世界の文化について説明・議論ができるようにする。	◎				○			◎	△
English through Dramas	自由	2~4	劇中の様々なパフォーマンスについて学び、体験することで英語でのコミュニケーションスキルを向上させる。	◎				○			◎	△
Advertisement English	自由	2~4	英語による広告の中に隠されたメッセージを読み解くことを通じ、英語圏の国々の文化の違い等について学ぶ。	◎				○			◎	△
TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	自由	2~4	語彙と文法をTOEFLの問題を使って学び、TOEFLib76点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEFL 2 (reading)	自由	2~4	速読や目的に合ったリーディング法をTOEFLの問題を使って学び、TOEFLib76点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEFL 2 (listening)	自由	2~4	英語と日本語の発音の違いから発音の仕方まで、TOEFLの問題を使って学び、TOEFLib76点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEFL 2 (speaking and writing)	自由	2~4	スピーキングとライティングを、TOEFLの問題を使って学び、TOEFLib76点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEIC 1 (reading)	自由	2~4	英語のリーディングの仕方から速読まで、TOEICの問題を使って学び、TOEIC600点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEIC 1 (listening)	自由	2~4	英語のリスニングの仕方とポイントの聞き取り方をTOEICの問題を使って学び、TOEIC600点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	自由	2~4	実践的なコミュニケーションに欠かせない語彙の増強と、文法の確認をTOEICの問題を使って学び、TOEIC600点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEIC 2 (reading)	自由	2~4	パッセージの要点をどう把握するのか、細部や例、パッセージのつながりを、TOEICの問題を使って学び、TOEIC700点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
TOEIC 2 (listening)	自由	2~4	ポイントを聞き取る練習に加え、細部や状況の把握、メモの取り方まで、TOEICの問題を使って学び、TOEIC700点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	自由	2~4	より実践的でビジネスに使われやすい語彙、正式な英語を使うための文法など、TOEICの問題を使って学び、TOEIC700点以上を目指す。	◎			○	○			◎	△
IELTS	自由	2~4	IELTSのスコア向上のためのスキルを学ぶ。	◎			○	○			◎	△
Lecture and Discussion A~H	自由	2~4	英語での講義を実際に聞き、理解の仕方、ノートの取り方、リサーチの仕方、試験の準備などを学ぶ。	◎				○			◎	△
Discussion and Debate	自由	2~4	英語によるディスカッションやディベートに必要な基本的スキルを身につける。	◎				○	◎		◎	△
Advanced Academic Vocabulary	自由	2~4	高い頻度で 사용되는アカデミックな語彙を厳選して集中的に学習する。	◎				○			◎	△
Current English 3 (Comprehensive)	自由	2~4	高いレベルでのリーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を身につける。またウェブサイト等でリアルタイムで流れるニュース、専門的な論評や記事を読むことを通じて様々な社会問題を理解する。	◎				○			◎	△
Academic Studies (advanced presentation)	自由	2~4	英語圏の大学で課せられるアカデミックなプレゼンテーションに対応できる能力を育成する。	◎				○			◎	△
Academic Studies (advanced writing)	自由	2~4	英語圏の大学で課せられるレポートや論文の書き方、さらにリサーチの仕方まで徹底的に教える実践的なクラス。	◎				○			◎	△
Career Studies (English for vocational)	自由	2~4	英語を使って仕事をすることを想定し、いろいろな職業分野の英語を場面別に具体的に学んでいく。	◎			△	○			◎	△
University Lecture A	自由	2~4	英語圏の大学で大学の学位や修士号を取得するために必要なアカデミックな英語スキルを習得する。	◎				○			◎	△
University Lecture B	自由	2~4	英語と日本語の違いと類似性について学ぶ。	◎				○			◎	△
University Lecture C	自由	2~4	ポジティブ心理学について学ぶことを通じ、英語でのリサーチやプレゼンテーションのスキルを身につける。	◎				○			◎	△
University Lecture D	自由	2~4	英語で創造的なライティングができるようなスキルを身に付ける	◎				○			◎	△
University Lecture E	自由	2~4	詩を読んで分析することにより、学生は言語を使用して一般的な経験や感情を表現する方法をよりよく理解できるようになることを目指す。	◎				○			◎	△
University Lecture F	自由	2~4	英語圏の大学で大学の学位や修士号を取得するために必要なアカデミックな英語スキルを習得する。	◎				○			◎	△
Current News through English Media	自由	2~4	幅広い話題のニュースについて学びながら、英語で聴く・読む力を習得する。	◎				○			◎	△
Multimodal Communication in English	自由	2~4	CLIL の授業をより効果的に受講するための準備講座。デジタルメディアが日常的になった現代における多様なコミュニケーション媒体を分析しながら、社会と個人のアイデンティティにおけるコミュニケーションの本質を探る。	◎				○			◎	△
Self-directed and Reflective Language Learning	自由	2~4	独立型言語学習と自発的学習を養うことを目的とした講義。学生は各々の言語ストラテジー(戦略)を記録したり振り返りを使用しながら言語学習計画を進めていく力を身に付ける。	◎				○			◎	△
Intercultural Studies	自由	2~4	異文化理解やコミュニケーション能力を身に付けることにより、留学の準備を行う。	◎				○			◎	△
Study Abroad Preparation: IELTS 1 (Basic)	自由	2~4	海外留学を目指す英語初級レベルの学生を対象に、留学生活に関連する幅広いトピックに関連するアクティビティを通じて英語の流暢さを高めるとともに、英語を使う自信を高めることを目的とする。また、IELTSテストの準備も行う。	◎				○			◎	△
Study Abroad Preparation: IELTS 2 (Intermediate)	自由	2~4	海外留学を目指す英語中級レベルの学生を対象に、留学生活に関連する幅広いトピックに関連するアクティビティを通じて英語の流暢さを高めるとともに、英語を使う自信を高めることを目的とする。また、IELTSテストの学習サポートも行う。	◎				○			◎	△
Study Abroad Preparation: IELTS 3 (Advanced)	自由	2~4	海外留学を目指す英語上級レベルの学生を対象に、留学生活に関連する幅広いトピックに関連するアクティビティを通じて英語の流暢さを高めるとともに、英語を使う自信を高めることを目的とする。また、IELTSテストの学習サポートも行う。	◎				○			◎	△
Reading for Pleasure	自由	2~4	英語リーディング力を高め、楽しんで英語の本を読めるようになることを目指す。読解力の向上を目指し様々なアクティビティを行う他、幅広いジャンルの本を読み、ディスカッションを行う。	◎				○			◎	△
Introduction to Global Studies A: Humanities	自由	2~4	英語を通してアカデミックな内容を学び、講義内容を理解するのに必要な言語スキルを習得する。	◎				○			◎	△

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
Introduction to Global Studies B: Social Science	自由	2~4	社会科学関連領域を題材としてトピック(法律と政治、経済、ツーリズム)の理解を通して、コミュニケーション能力ならびにアカデミックな言語能力を養う。	◎				○			◎	△
Introduction to Global Studies C: Natural Science	自由	2~4	自然科学関連領域を題材としたトピック(生物科学、地球科学、脳科学)の理解を通して、コミュニケーション能力ならびにアカデミックな言語能力を養う。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars(Literature)	自由	2~4	英語を通してアカデミックな内容を学び、講義内容を理解するのに必要な言語スキルを習得する。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars(Ecology)	自由	2~4	現代の地球規模の環境課題、環境や人間社会に対する影響、ならびに個人の責任について協同学習や問題解決型学習を通じて学ぶ。またディスカッションやプレゼンテーションを通じて、これらの環境問題について適切な英語表現で効果的にコミュニケーションを行い、批判的思考スキルを習得する。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Japanology)	自由	2~4	日本文化についての興味を促しながら同時に英語力を高めることを目的とする。“読む・話し合う・発表する”活動のコンビネーションを通して日本の伝統的、ならびに現代の文化について学ぶ。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (SDGs)	自由	2~4	現代社会の食品産業を通して持続可能な開発目標(SDGs)に着目する。地球規模の生産や流通ならびに食料の消費についての概要を学び、現代の食品産業の持続可能性について懸念すべき主要な問題について考える。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Psychology)	自由	2~4	心理学に関連する基本的な内容を英語で学びながら、心理学分野を理解し議論するために必要な英語力を身につけることを目的とする。様々なテキストの要点を把握するストラテジーを身につける他、グループ活動を通して、より深いテキストの理解を目指す。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Tourism)	自由	2~4	観光における様々な問題(エコツーリズム、オーバーツーリズム、持続可能な観光など)について、グローバル・ローカル両方の視点から理解を深める。リサーチプロジェクト、ディスカッション、ライティング活動を行い、批判的思考スキルを身につけながら、高度な英語力の修得を目指す。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (History)	自由	2~4	世界および様々な地域の歴史の理解を通じて、高度な思考力を身につけることを目的とする。地図、グラフ、写真、新聞記事等の情報源を使い、ライティングやディスカッションを行う。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Art)	自由	2~4	現代美術の変遷や関連する様々なトピックについて学ぶことを目的とする。芸術と社会、文化、歴史との関係について、また、芸術がどのように私たちの生活を反映しているかについて考察する。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Health and Wellness)	自由	2~4	身体的・精神的な健康とウェルネスに関連する基本的な概念の理解を目的とする。個人の健康とウェルネスを向上・維持する方法について、また、コミュニティや文化レベルにおける健康とウェルネスの原理について学ぶ。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Globalization and Business)	自由	2~4	グローバル化とビジネスを、歴史、経済、政治、環境、思想の面から理解することを目的とする。グローバリゼーションやビジネスの動きについてメリットとデメリットの両面から考察し、批判的思考力を養う。	◎				○			◎	△
CLIL Seminars (Movies)	自由	2~4	映画制作に関する理論的・実践的なプロセスについて理解しながら、英語力を向上させることを目的とする。授業では映画制作の様々な側面に関する映像を見て、ディスカッションを行う。	◎				○			◎	△
Business Speaking	自由	2~4	さまざまなビジネスの状況や、仕事上の問題、ならびに国際的差異についてどのように理解し、話されるのかを学ぶことを目的とする。また、ビジネス上の会議やインタビュー、プレゼンテーションへの参加の仕方学ぶ。	◎				○			◎	△
Communication for Global Business	自由	2~4	ビジネスの様々な場面で英語コミュニケーションを行う方法について、また、ビジネス上の様々な問題、文化的違いを理解した上で、話す方法について学ぶことを目的とする。また、ビジネス会議、面接、プレゼンテーションの方法について、さらに、多様な英語が世界で話されていることを理解する。	◎				○			◎	△
Collaborative Business Projects	自由	2~4	グローバル企業におけるインターンシップの模擬体験を通じて、新製品の開発、市場調査、広告キャンペーン、就職面接などを英語で行う方法について学ぶ。	◎				○			◎	△
英語海外文化研修	自由	1~4	休業期間中にアメリカでの家庭生活と大学生活を体験し、英語によるコミュニケーション能力を伸ばすと同時に、参加者各自が独自のテーマをもって参加することによりそのテーマについての理解を深める。	◎			△	○	△		◎	△
ビクトリア夏ESL2	自由	1~4	夏季休業期間中に、他国・他大学の学生とともにカナダの文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
ハワイ夏ESL1	自由	1~4	夏季休業期間中に、他国・他大学出身の学生とともにアメリカの文化、ハワイの文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
ダブリン夏ESL3	自由	1~4	夏季休業期間中に、他国・他大学の学生とともにアイルランドの文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
ダブリン春ESL3	自由	1~4	春季休業期間中に、他国・他大学の学生とともにアイルランドの文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
ビクトリア春ESL2	自由	1~4	春季休業期間中に、他国・他大学の学生とともにカナダの文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
ハワイ春ESL1	自由	1~4	春季休業中に、他国・他大学出身の学生とともにアメリカの文化、ハワイの文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
グリフィス春ESL3	自由	1~4	春季休業期間中に、他国・他大学の学生とともにオーストラリアの文化を学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
短期語学研修科目(英語)	自由	1~4	休業期間中に他国・他大学出身の学生とともに派遣先国の文化について学びながら、英語コミュニケーション能力を伸ばす。	◎			△	○	△		◎	△
オンライン海外語学研修科目(英語)	自由	1~4	他国・他大学の学生とともに語学学校のECまたはILACの実施するオンライン語学研修を受講し英語コミュニケーション能力を伸ばす。 本授業では、ライブで配信される双方向型の授業を通して語学力の向上と、様々なアクティビティやペアワーク、ディスカッションを通して英語によるコミュニケーション力の向上を目指す。	◎			△	○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに多王できる実践的な日本語力を身につける。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
ドイツ語基礎1	必修	1	文字と発音を正確に把握し、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基礎をバランスよく身につけることで、初歩的な文法表現を使った平易な日常的コミュニケーションの能力をつける。また当該言語圏を話す人々の歴史や文化を知ることにより、多文化社会における文化理解の能力と共生力の基礎を身につける。	◎				○			◎	
ドイツ語基礎2	必修	1	正確な発音を身につけ、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基本的技能にもとづいて、基礎的な文法表現を使った日常的コミュニケーションの能力を身につける。また当該言語圏を話す人々の歴史や文化を知ることにより、異文化を理解し、対応する力を養う。	◎				○			◎	
ドイツ語スタンダード1・2・3・4	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)をより高いレベルで身につけ、発展的な文法表現を使った実践的コミュニケーション能力をつける。また当該言語の知識を積極的に活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できるようにする。	◎				○			◎	△
ドイツ語中級1・2	自由	2~4	週2回の授業を通して言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を集中的に強化し、それぞれのより高いレベルに達するとともに、発展的な文法表現を使った総合的なコミュニケーション能力を身につける。また、当該言語の知識を活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できる姿勢を養う。	◎				○			◎	△
上級ドイツ語コミュニケーション1・2	自由	2~4	当該言語のアクティブな運用能力を身につけ、応用的な文法表現を使った実践的コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養う。また異文化についてクリティカルな視点を持ってコミュニケーションをとることができる。	◎				○	○		◎	△
上級ドイツ語リスニング・リーディング1・2	自由	2~4	当該言語の発信型運用能力を身につけ、応用的な表現力を用いて、日常的な手紙・電子メールからややアカデミックなエッセイやレポートなどの文章を書くことができる。異文化理解を背景とした論理的な自己表現力を養う。	◎				○	△		◎	△
上級ドイツ語ライティング1・2	自由	2~4	当該言語を情報源として使うための聴解力と読解力を身につけ、日常的な内容から、時事的内容、さらにはややアカデミックなレベルでの歴史・社会・文化的内容の聴解と読解の力をつける。	◎				○			◎	△
上級ドイツ語演習1・2	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を発展させ、幅広いジャンルの内容に対応する運用能力を身につけ、異文化に対する応用的な対応を可能にする。	◎		△		○	△		◎	△
言語情報処理論(ドイツ語)	自由	2~4	パソコンで当該言語を使うためのスキルを身につけ、電子メールや、ワープロ、表計算などのソフトにおいても当該言語で情報処理できるようにする。またインターネットを介して当該言語媒体から情報収集する力を身につける。	◎				○			◎	△
ドイツ語総合1	自由	2~4	総合的に言語のコミュニケーション能力を伸長することのほか、当該言語が話される地域の社会や文化などについて、履修者自身の出自国と比較しながらより理解を深めることを目的とする。また、様々な学習活動を通じて、留学に必要なレベル(B1)への到達を目指す。	◎				○	○		◎	△
ドイツ語総合2	自由	2~4	総合的に言語のコミュニケーション能力を伸長することのほか、当該言語が話される地域の社会や文化などについて、履修者自身の出自国と比較しながらより理解を深めることを目的とする。また、様々な学習活動を通じて、留学に必要なレベル(B1)への到達を目指す。	◎				○	○		◎	△
ドイツ語総合3	自由	2~4	留学に必要なレベル(B1)への到達を目指す。具体的には、CEFR B1レベルの教材の前半部分を使用し、総合的に言語のコミュニケーション能力を伸長することを目指す。さらに、当該言語が話される地域の社会や文化などについて履修者の自国のものと比較しながらより見識を広める。	◎				○	○		◎	△
ドイツ語総合4	自由	2~4	留学に必要なレベル(B1)への到達を目指す。具体的には、CEFR B1レベルの教材の後半部分を使用し、総合的に言語のコミュニケーション能力を伸長することを目指す。さらに、当該言語が話される地域の社会や文化などについて履修者の自国のものと比較しながらより見識を広める。	◎				○	○		◎	△
ドイツ語海外言語文化研修(中級)	自由	1~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△
ドイツ語海外言語文化研修(上級)	自由	2~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、より高度で実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに多王できる実践的な日本語力を身につける。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
フランス語基礎1	必修	1	文字と発音を正確に把握し、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基礎をバランスよく身につけることで、初歩的な文法表現を使った平易な日常的コミュニケーションの能力をつける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、多文化社会における文化理解の能力と共生力の基礎を身につける。	◎				○			◎	
フランス語基礎2	必修	1	正確な発音を身につけ、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基本的技能にもとづいて、基礎的な文法表現を使った日常的コミュニケーションの能力を身につける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、異文化を理解し、対応する力を養う。	◎				○			◎	
フランス語スタンダード1・2・3・4	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)をより高いレベルで身につけ、発展的な文法表現を使った実践的コミュニケーション能力をつける。また当該言語の知識を積極的に活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できるようにする。	◎				○			◎	△
フランス語中級1・2	自由	2~4	週2回の授業を通して言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を集中的に強化し、それぞれのより高いレベルに達するとともに、発展的な文法表現を使った総合的なコミュニケーション能力を身につける。また、当該言語の知識を活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できる姿勢を養う。	◎				○			◎	△
上級フランス語コミュニケーション1・2	自由	2~4	当該言語のアクティブな運用能力を身につけ、応用的な文法表現を使った実践的コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養う。また異文化についてクリティカルな視点を持ってコミュニケーションをとることができる。	◎				○	○		◎	△
上級フランス語リスニング・リーディング1・2	自由	2~4	当該言語の発信型運用能力を身につけ、応用的な表現力を用いて、日常の手紙・電子メールからややアカデミックなエッセイやレポートなどの文章を書くことができる。異文化理解を背景とした論理的な自己表現力を養う。	◎				○	△		◎	△
上級フランス語ライティング1・2	自由	2~4	当該言語を情報源として使うための聴解力と読解力を身につけ、日常的内容から、時事的内容、さらにややアカデミックなレベルでの歴史・社会・文化的内容の聴解と読解の力をつける。	◎				○			◎	△
上級フランス語演習1・2	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を強化させ、幅広いジャンルの内容に対応する運用能力を身につけ、異文化に対する応用的な対応を可能にする。	◎		△		○	△		◎	△
言語情報処理論(フランス語)	自由	2~4	パソコンで当該言語を使うためのスキルを身につけ、電子メールや、ワープロ、表計算などのソフトにおいても当該言語で情報処理できるようにする。またインターネットを介して当該言語媒体から情報収集する力を身につける。	◎				○			◎	△
フランス語総合3	自由	2~4	留学に必要なレベル(B1)への到達を目指す。具体的には、CEFR B1レベルの教材の前半部分を使用し、総合的に言語のコミュニケーション能力を伸長することを目指す。さらに、当該言語が話される地域の社会や文化などについて履修者の自国のものと比較しながらより見識を広める。	◎				○	○		◎	△
フランス語海外言語文化研修(中級)	自由	1~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△
フランス語海外言語文化研修(上級)	自由	2~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、より高度で実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに多王できる実践的な日本語力を身につける。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
スペイン語基礎1	必修	1	文字と発音を正確に把握し、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基礎をバランスよく身につけることで、初歩的な文法表現を使った平易な日常的コミュニケーションの能力をつける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、多文化社会における文化理解の能力と共生力の基礎を身につける。	◎				○			◎	
スペイン語基礎2	必修	1	正確な発音を身につけ、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基本的技能にもとづいて、基礎的な文法表現を使った日常的コミュニケーションの能力を身につける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、異文化を理解し、対応する力を養う。	◎				○			◎	
スペイン語スタンダード1・2・3・4	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)をより高いレベルで身につけ、発展的な文法表現を使った実践的コミュニケーション能力をつける。また当該言語の知識を積極的に活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できるようにする。	◎				○			◎	△
スペイン語中級1・2	自由	2~4	週2回の授業を通して言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を集中的に強化し、それぞれのより高いレベルに達するとともに、発展的な文法表現を使った総合的なコミュニケーション能力を身につける。また、当該言語の知識を活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できる姿勢を養う。	◎				○			◎	△
上級スペイン語コミュニケーション1・2	自由	2~4	当該言語のアクティブな運用能力を身につけ、応用的な文法表現を使った実践的コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養う。また異文化についてクリティカルな視点を持ってコミュニケーションをとることができる。	◎				○	○		◎	△
上級スペイン語リスニング・リーディング1・2	自由	2~4	当該言語の発信型運用能力を身につけ、応用的な表現力を用いて、日常の手紙・電子メールからアカデミックなエッセイやレポートなどの文章を書くことができる。異文化理解を背景とした論理的な自己表現力を養う。	◎				○	△		◎	△
上級スペイン語ライティング1・2	自由	2~4	当該言語を情報源として使うための聴解力と読解力を身につけ、日常的内容から、時事的内容、さらにアカデミックなレベルでの歴史・社会・文化的内容の聴解と読解の力をつける。	◎				○			◎	△
上級スペイン語演習1・2	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を強化させ、幅広いジャンルの内容に対応する運用能力を身につけ、異文化に対する応用的な対応を可能にする。	◎		△		○	△		◎	△
言語情報処理論(スペイン語)	自由	2~4	パソコンで当該言語を使うためのスキルを身につけ、電子メールや、ワープロ、表計算などのソフトにおいても当該言語で情報処理できるようにする。またインターネットを介して当該言語媒体から情報収集する力を身につける。	◎				○			◎	△
スペイン語総合5	自由	2~4	留学に必要なレベル(B1)への到達を目指す。具体的には、CEFR B1レベルの教材の前半部分を使用し、総合的に言語のコミュニケーション能力を伸長することを目指す。さらに、当該言語が話される地域の社会や文化などについて履修者の自国のものと比較しながらより見識を広める。	◎				○	○		◎	△
スペイン語海外言語文化研修(中級)	自由	1~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△
スペイン語海外言語文化研修(上級)	自由	2~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、より高度で実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに多王できる実践的な日本語力を身につける。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
中国語基礎1	必修	1	文字と発音を正確に把握し、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基礎をバランスよく身につけることで、初歩的な文法表現を使った平易な日常的コミュニケーションの能力をつける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、多文化社会における文化理解の能力と共生力の基礎を身につける。	◎				○			◎	
中国語基礎2	必修	1	正確な発音を身につけ、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基本的技能にもとづいて、基礎的な文法表現を使った日常的コミュニケーションの能力を身につける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、異文化を理解し、対応する力を養う。	◎				○			◎	
中国語スタンダード1・2・3・4	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)をより高いレベルで身につけ、発展的な文法表現を使った実践的コミュニケーション能力をつける。また当該言語の知識を積極的に活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できるようにする。	◎				○			◎	△
中国語中級1・2	自由	2~4	週2回の授業を通して言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を集中的に強化し、それぞれのより高いレベルに達するとともに、発展的な文法表現を使った総合的なコミュニケーション能力を身につける。また、当該言語の知識を活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できる姿勢を養う。	◎				○			◎	△
上級中国語コミュニケーション1・2	自由	2~4	当該言語のアクティブな運用能力を身につけ、応用的な文法表現を使った実践的コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養う。また異文化についてクリティカルな視点を持ってコミュニケーションをとることができる。	◎				○	○		◎	△
上級中国語リスニング・リーディング1・2	自由	2~4	当該言語の発信型運用能力を身につけ、応用的な表現力を用いて、日常の手紙・電子メールからややアカデミックなエッセイやレポートなどの文章を書くことができる。異文化理解を背景とした論理的な自己表現力を養う。	◎				○	△		◎	△
上級中国語ライティング1・2	自由	2~4	当該言語を情報源として使うための聴解力と読解力を身につけ、日常的な内容から、時事的内容、さらにややアカデミックなレベルでの歴史・社会・文化的内容の聴解と読解の力をつける。	◎				○			◎	△
上級中国語演習1・2	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を発展させ、幅広いジャンルの内容に対応する運用能力を身につけ、異文化に対する応用的な対応を可能にする。	◎		△		○	△		◎	△
言語情報処理論(中国語)	自由	2~4	パソコンで当該言語を使うためのスキルを身につけ、電子メールや、ワープロ、表計算などのソフトにおいても当該言語で情報処理できるようにする。またインターネットを介して当該言語媒体から情報収集する力を身につける。	◎				○			◎	△
中国語海外言語文化研修(中級)	自由	1~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△
中国語海外言語文化研修(上級)	自由	2~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、より高度で実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに多王できる実践的な日本語力を身につける。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
朝鮮語基礎1	必修	1	文字と発音を正確に把握し、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基礎をバランスよく身につけることで、初歩的な文法表現を使った平易な日常的コミュニケーションの能力をつける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、多文化社会における文化理解の能力と共生力の基礎を身につける。	◎				○			◎	
朝鮮語基礎2	必修	1	正確な発音を身につけ、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基本的技能にもとづいて、基礎的な文法表現を使った日常的コミュニケーションの能力を身につける。また当該言語圏の歴史や文化を知ることにより、異文化を理解し、対応する力を養う。	◎				○			◎	
朝鮮語スタンダード1・2・3・4	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)をより高いレベルで身につけ、発展的な文法表現を使った実践的コミュニケーション能力をつける。また当該言語の知識を積極的に活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できるようにする。	◎				○			◎	△
朝鮮語中級1・2	自由	2~4	週2回の授業を通して言語四能力(聞く・話す・読む・書く)を集中的に強化し、それぞれのより高いレベルに達するとともに、発展的な文法表現を使った総合的なコミュニケーション能力を身につける。また、当該言語の知識を活用して、当該言語圏の社会や文化を理解し、異文化に対応できる姿勢を養う。	◎				○			◎	△
上級朝鮮語コミュニケーション1・2	自由	2~4	当該言語のアクティブな運用能力を身につけ、応用的な文法表現を使った実践的コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養う。また異文化についてクリティカルな視点を持ってコミュニケーションをとることができる。	◎				○	○		◎	△
上級朝鮮語リスニング・リーディング1・2	自由	2~4	当該言語の発信型運用能力を身につけ、応用的な表現力を用いて、日常の手紙・電子メールからややアカデミックなエッセイやレポートなどの文章を書くことができる。異文化理解を背景とした論理的な自己表現力を養う。	◎				○	△		◎	△
上級朝鮮語ライティング1・2	自由	2~4	当該言語を情報源として使うための聴解力と読解力を身につけ、日常的な内容から、時事的内容、さらにややアカデミックなレベルでの歴史・社会・文化的内容の聴解と読解の力をつける。	◎				○			◎	△
上級朝鮮語演習1・2	自由	2~4	言語4能力(聞く・話す・読む・書く)を発展させ、幅広いジャンルの内容に対応する運用能力を身につけ、異文化に対する応用的な対応を可能にする。	◎		△		○	△		◎	△
言語情報処理論(朝鮮語)	自由	2~4	パソコンで当該言語を使うためのスキルを身につけ、電子メールや、ワープロ、表計算などのソフトにおいても当該言語で情報処理できるようにする。またインターネットを介して当該言語媒体から情報収集する力を身につける。	◎				○			◎	△
朝鮮語海外言語文化研修(中級)	自由	1~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△
朝鮮語海外言語文化研修(上級)	自由	2~4	休業期間中に現地での研修を通じて、短期間に集中的に運用能力を向上させ、より高度で実践的なコミュニケーション力をつける。また当該言語圏の社会や文化を体験的に理解し、それを異文化理解に活かす。	◎		△		○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

- <言語B>
 1) 聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。(「1. リベラルアーツの素養」「9. 社会的実践力」と関連)
 2) 当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。(「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」と関連)
 3) 留学生については、大学における学習・生活に必要な高度な日本語運用能力を身につけ、論文を日本語で作成できる。
 4) 留学生については、実社会の日本語コミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
ロシア語基礎1	必修	1	文字と発音を正確に把握し、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基礎をバランスよく身につけることで、初歩的な文法表現を使った平易な日常的コミュニケーションの能力をつける。また当該言語語を話す人々の歴史や文化を知ることにより、多文化社会における文化理解の能力と共生力の基礎を身につける。	◎				○			◎	
ロシア語基礎2	必修	1	正確な発音を身につけ、言語4能力(聞く・話す・読む・書く)の基本的技能にもとづいて、基礎的な文法表現を使った日常的コミュニケーションの能力を身につける。また当該言語を話す人々の歴史や文化を知ることにより、異文化を理解し、対応する力を養う。	◎				○			◎	
ロシア語セミナーA	自由	1~4	現代ロシアの日常生活を題材としたテキストを使って、基礎1・基礎2で学んだ格変化、動詞の用法などの文法事項を復習し、ロシア語を読み、話し、書く総合的な力を養う。	◎				○			◎	△
ロシア語セミナーB	自由	1~4	テキストに即して基礎的な文法事項を復習しつつ、さらに中級レベルの文法事項、語彙も習得し、より高度なロシア語の運用能力を身につける。	◎				○			◎	△
ロシア語セミナーC	自由	1~4	ロシア語の基礎文法再確認と、より深い理解と応用力の養成を目指す。	◎				○			◎	△
ロシア語セミナーD	自由	1~4	「ロシア語3A1」修了レベルを前提とする。「ロシア語3A1」に続いて、文法と語彙の基礎習得が目標。辞書さえあれば、どんなロシア語の文章も独力で読み取れるレベルへの到達をめざす。	◎				○			◎	△
ロシア語セミナー1	自由	1~4	ロシア語を使ってスムーズなコミュニケーションができるようになるために今まで得た文法知識を活かしロシア語発話能力及び聞き取り能力を伸ばすこと、実際の会話に使えるロシア語のボキャブラリーや表現できる幅を広くすることを目指す。また、現代ロシアの日常生活や文化に対する理解を深める。	◎				○			◎	△
ロシア語セミナー2	自由	1~4	ロシア語を使ってスムーズなコミュニケーションができるようになるために今まで得た文法知識を活かしロシア語発話能力及び聞き取り能力を伸ばすこと、実際の会話に使えるロシア語のボキャブラリーや表現できる幅を広くすることを目指す。また、現代ロシアの日常生活や文化に対する理解を深める。	◎				○			◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

<言語B>

- 1) 聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。(「1. リベラルアーツの素養」「6. 表現力」「9. 社会的実践力」と関連)
- 2) 当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。(「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」と関連)
- 3) 留学生については、大学における学習・生活に必要な高度な日本語運用能力を身につけ、論文を日本語で作成できる。
- 4) 留学生については、実社会の日本語コミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
ポルトガル語1	自由	1~4	ポルトガル語の初學者や初歩的な文法を学習した人を主な対象として、日常会話レベルの文法を学び、読解、会話に運用できるようになることを目指す。	◎				○			◎	○
ポルトガル語2	自由	1~4	ポルトガル語の初學者や初歩的な文法を学習した人を主な対象として、日常会話レベルの文法を学び、読解、会話に運用できるようになることを目指す。	◎				○			◎	○
ポルトガル語3	自由	1~4	ポルトガル語の初歩的な文法を学習した人を主な対象として、日常会話レベルの文法を学び、読解、会話に運用できるようになることを目指す。	◎				○			◎	○
ポルトガル語4	自由	1~4	ポルトガル語の初歩的な文法を学習した人を主な対象として、日常会話レベルの文法を学び、読解、会話等に運用できるようになることを目指す。	◎				○			◎	○

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

<言語B>

- 1) 聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。(「1. リベラルアーツの素養」「6. 表現力」「9. 社会的実践力」と関連)
- 2) 当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。(「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」と関連)
- 3) 留学生については、大学における学習・生活に必要な高度な日本語運用能力を身につけ、論文を日本語で作成できる。
- 4) 留学生については、実社会の日本語コミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
日本手話1	自由	1~4	日本手話・入門編の語学講義。主に、初めて手話に出会う学生を対象に、異文化コミュニケーションの一つとして手話を学ぶと共に、ろう文化の概要を知る。そして手話で簡単な日常会話ができるようになる。	◎				○	○			○
日本手話2	自由	1~4	日本手話・初級編の語学講義。豊かな表現力を持つ手話を通してコミュニケーション能力を磨くと共に、ろう者の社会的背景を学ぶ。また、手話を読み取る力を養う。	◎				○	○			○
日本手話3	自由	1~4	日本手話・中級編の語学講義。主に、初級編を終えた学生を対象に、手話でのコミュニケーション能力のアップを図ると共にろう者について多角的に考察する。	◎				○	○			○
日本手話4	自由	1~4	日本手話・上級編の語学講義。主に中級編を終えた学生を対象に、手話で自分の意見を表現する力を身に付けると共にろう者について多角的に考察する。	◎				○	○			○

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

- <言語B>
 1) 聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。(「1. リベラルアーツの素養」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」と関連)
 2) 当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)
 3) 留学生については、大学における学習・生活に必要な高度な日本語運用能力を身につけ、論文を日本語で作成できる。(「1. リベラルアーツの素養」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」と関連)
 4) 留学生については、実社会の日本語コミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。(「1. リベラルアーツの素養」「3. 自己を理解し発展させる力」「4. キャリア展望を確立する力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラルアーツの素養	2.専門性	3.自己を理解し発展させる力	4.キャリア展望を確立する力	5.他者を理解する姿勢	6.表現力	7.リーダーシップ	8.国際性	9.社会的実践力
大学生の日本語A	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
大学生の日本語B	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
大学生の日本語C	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
大学生の日本語D	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
日本の社会と文化A～C	自由	1～4	社会問題、芸能文化など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それについて理解を深めながら、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
社会の中の日本語A・B	自由	1～4	流行語、擬音語・擬態語など、社会言語学的側面から日本語についての理解を深めるとともに、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
論文読解の技法	自由	1～4	様々な分野の学術論文を読み、日本語の学術論文の構成をつかむとともに、論文で用いられる様々な表現を理解することに重点を置きながら、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
論文作成の技法	自由	1～4	卒業論文や学術論文など、レポートよりも長く、学術的な論文の書き方について学ぶことに重点を置きながら、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
キャリアの日本語A	自由	1～4	日本の就職活動の全体の流れや要点を理解するとともに、エントリーシートの書き方(効果的な構成、適切な文体や語彙等)、面接で求められる日本語(適切な応対、マナー)など、実質的な日本語スキルの獲得を目指す。	◎		◎	◎	○			◎	○
キャリアの日本語B	自由	1～4	就職試験で出題される日本語関連項目(敬語や四字熟語、慣用表現等)について学びながら、日本で行われる就職試験を理解する。また数多くの問題に触れることによって日本語や日本文化・社会についての知識を増やす。	◎		◎	◎	○			◎	○
ビジネスのための口頭運用力A	自由	1～4	日本語の談話の特徴について理解を深めるとともに、敬語や待遇表現など、日本企業で働く際に必要となる口頭運用力を身につける。	◎			◎	○	△		◎	○
ビジネスのための口頭運用力B	自由	1～4	ビジネスで必要とされる談話レベルの日本語力を、ソリューション・デザイン型活動を通して身につけ、より高度なビジネス日本語運用能力の獲得を目指すとともに、日本でのビジネスの進め方への理解を深める。	◎			◎	○	△		◎	○
ビジネスメールと文書	自由	1～4	日本語の書き言葉によるコミュニケーションについての理解を深めながら、ビジネスメール、報告書、依頼状などの様々なビジネス文書の読み方、書き方について学び、使えるようになる。	◎			◎	○			◎	○